

平成30年度 研究全体計画

1 中国分小学校の教育目標，経営の重点から

教育目標

未来に夢を抱き希望に向かって力強く学ぶ児童の育成を目指し，
やさしさ，かしこさ，たくましさを磨く。

◆ 確かな学力の育成

① 生徒指導の機能を重視したわかる授業の推進

- ・校内研究の推進（言語活動の充実と思考力・表現力・活用する力の育成）
- ・交換授業の推進，得意教科の波及
- ・問題解決型の授業推進
- ・なかこく10の指標の積極的活用

② 基礎基本の確実な定着

- ・授業時間の確保
（繰り返し学習等で確実な習得）
- ・「家庭学習のすすめ」の推進
- ・全校一斉課題の実施（漢字・計算等）
- ・「校内塾まなびくらぶ」の活用
- ・少人数教育（算数科）の推進 等

③ 指導と評価の一体化

- ・評価規準・基準の明確化

評価規準とは，観点を具体的にしたもの。

評価基準とは，判断基準を示し文章表記したもの。

- ・ワークシート・ノートの文章表現をもとにする。

④ 研修・研究の充実

- ・校内外研究会・各種研修会への参加
- ・次期学習指導要領へ円滑な移行のための研修
- ・ICT活用の推進と研修の充実

【なかこく10の指標】

- 1 教室内が好ましい学習環境になっているか。
- 2 この時間に何を学ぶか，ねらいがはっきりしていたか。
- 3 児童の学習意欲を引き出す教材・教具の工夫はできていたか。
- 4 適切な学習の進め方や，時間配分はできていたか。
- 5 丁寧で分かりやすい説明や問いかけ，指示はできていたか。
- 6 机間指導の中で，一人ひとりの目配りしながら指導や支援はできていたか。
- 7 教科の特色を生かして学習の形態を工夫したか。
- 8 この時間の授業評価の把握に努めたか。
- 9 板書は丁寧で分かりやすく書かれていたか。
- 10 児童の発言を聞き逃さず，丁寧に対応していたか。

2 研究主題について

研究主題

主体的・対話的・深い学びの授業の構築

主体的とは

- ・ ひとりひとりの子どもが、その子なりの明確な問題意識を持って追究し、自分の良さや可能性を発揮しながら、意欲的に自分らしい思いや考えを何らかの方法で実現している様々な行為
- ・ 問題場面に直面した時に、問題を解決するために自分の考えをもとに話し合ったり書いたりする能力や態度

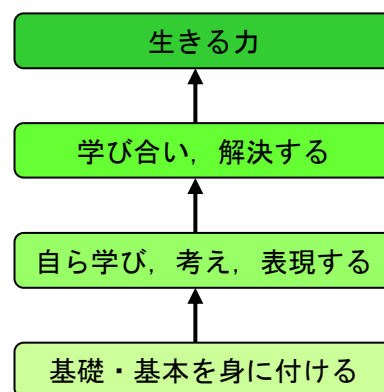
対話的とは

- ・ 自分の考えをきちんと伝えることができる。
- ・ 理論的に考えたことをわかりやすく人に説明することができる。
- ・ 一つの考えや方法で理解してもらえない時、他の考えや方法で説明することができる。
- ・ 友だちの考えや意見に対して、自分の考えを述べることができる。異なる点や共通点をとらえて話すことができる。
- ・ 意見の異なる人を説得したり、議論して意見をまとめたりすることができる。

深い学びとは

子どもたち一人一人の考えや思いを伝え合い、聞き合い、深めあおうとすることである。学習活動の中で自分の思いや考えを、一方的にではなく双方向に交流させ、多様な考えを吟味することが、さらに自らの思考を深めることとなる。

その前提として、自分の思いや考えをしっかりと持たなければならない。そして、そのためには、今まで学習したことがしっかりと身に付いていなくてはならない。授業者は、各教科の基礎・基本がどのようなものであるかを明確にし、それをしっかりと子どもに身に付けさせていくことが重要になる。



4 研究組織

